

配慮の視点	種の多様性への配慮 遺伝子の多様性への配慮	配慮 項目	野生生物の移動を阻害する要素の 排除
配慮事項	野生動物の移動ルート確保		
配慮事例	移動ルート分断時のトンネル、横断橋による移動ルート確保		
内容	<p>●横断橋による移動ルートの確保</p>		
	<p>【解説】 野生動物の生息環境の場を分断する場合などに際しては、切土区間では道路上に通路を確保し、移動路を確保することが生物多様性への配慮につながります。対象とする動物種によって、設置場所、橋の大きさ、わたりやすい構造（覆土など）に配慮することが望まれます。</p> <p>【具体的な工法・配慮事項】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="293 824 831 1099" style="width: 45%;"> </div> <div data-bbox="837 772 1449 1198" style="width: 45%; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ol style="list-style-type: none"> ① 路面は土壌などを用いた自然の仕上げにするのが望ましい。 ② 幅員は大きくし、両端には植栽基盤を作り、通行する車両が動物側から見えないようにします。 ③ 出入り口周辺部には移動用通路を確保し、道路への侵入防止柵を設置します。 </div> </div> <p>出典:1</p> <p>【事例】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="280 1288 751 1424" style="width: 45%;"> </div> <div data-bbox="783 1272 1449 1624" style="width: 45%; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>【場所】 大分県 大分自動車道</p> <p>【環境配慮の内容と方法、工法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高崎山のニホンザルの移動経路確保のために、オーバースタック式のサル専用移動路を設置した。 ・ 壁高欄にし、底部は客土して草本類が生育するようにした。 ・ 橋の両側出入り口部には植栽をし、本線部には格子状の侵入防止柵を設置した。 </div> </div> <p>出典:3</p>		
留意点			
参考資料	<ol style="list-style-type: none"> 1 「自然との共生をめざす道づくり - エコロード・ハンドブック -」(財) 道路環境研究所 エコロード検討委員会、大成出版社 2 「エコロード 生き物にやさしい道づくり」 亀山章編、ソフトサイエンス社 3 「道路環境影響評価の技術手法 2007年改定版」(財) 道路環境研究所 		